

尊い命と異なる個性とのふれ愛

人は、自分のありのままの姿を受け止められ、愛されて育つことで、自分を大切にできる心、周りの人やものを受け止め、愛する心が育まれていきます。

ことばでのやり取りができない乳児のときから、泣くなどの働きかけに、周りのおとなが温かく応答してくれる、不安や欲求不満があるとき、常に寄り添ってくれるおとながいる等の体験を繰り返す中で、「自分は価値のある存在なんだ」という自尊感情と、人への信頼感を身に付けていきます。



幼児教育を考えると、まずは、「愛情」を土台とし、一人ひとりの子どもが周りの人に愛されて育つことを大切にします。一人ひとりの個性はかけがえのないもので、大切にされなければいけません。

そこで「愛情」については次のことを大切にします。

① ありのままのわたしとあなたを大切にすること

子どもにとって大切なのは、ありのままの自分を愛されて育つこと。「〇〇ができるからあなたが大切」ではなく、ありのままの自分を愛されることが何よりも大切なことです。

愛情を受けて育つことで、子どもは、周りの人や様々な命、身の回りのすべてのものを愛する人に育っていきます。



愛情

② 一人ひとりみんな違う～多様性を認め合う～

人は一人ひとり違ってあたりまえです。

ありのままの「わたし」と「あなた」をお互いに認め合う中で、「じぶんでいいよ」という自分を大切にできる心、「あなたでいいよ」という人を肯定できる心が育まれていきます。

乳幼児期から様々な個性に出会い、関わり、つながり、ときにはぶつかるなど、様々な経験を通して人を好きになり、多様な人がいることや人とは素晴らしい存在だということを学びます。そのことが、子どもが将来、すべての人を大切に、共に生きていける社会を創り出すための原動力になります。

③ 「お互いさま」の子育てを

すべての子どもがありのままを愛されるためには、子どもに関わる様々なおとなが、目の前の子どもに安心して愛情を注ぐことができる環境を作ることが大切になります。

「お互いさま」と言って、できる人が、できるときに、できることをして、おとな同士がつながり、地域で支え、まち全体で「愛情」を土台とし、乳幼児期の子どもを育みます。

「まちづくりは人づくりから」…。伊丹市はこれまでも、「お互いさま」で成り立つ人と人とのつながりを大切に、まちづくりを進めてきました。

伊丹市に住む0歳児の赤ちゃんからお年寄りまで、一人ひとりが大切にされる、そんなまちでありたいと願います。



伊丹市は、子どもと様々な人とのふれ愛を通して、子どもを「愛情」で支え、個性が尊重されることを願います。